



広島国際学院
創立79年



華やかな盆踊り（高校体育祭にて）

10月28・29日高城祭開催！

特集 頑張る留学生	2-3
「循環的創造2006 in ひろしま」 工学部	4
公開講座「広がる情報デザイン」 情報学部	5
高齢者も障害者も生き生きと 現代社会学部	6
大好評「OBの特別講義」 短期大学部	7
高校から発信	8-9
学友会行事	10
HERO2006	11
私の大学生活	11
機械工学科のユニークな教育	12
今後の主な行事予定	12

広 報

第67号

平成18年10月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>

頑張る留学生

本学にも大勢の留学生が在籍し、それぞれ志を抱いて懸命に学んでいます。故国を離れ、日本という慣れない異境の地で暮らし、授業の後ではアルバイトをして生活費を稼ぐという多忙な日々。しかも勉強の手は抜かず、理解度もトップクラスという彼らの姿は、日本人の学生たちにも刺激となり、よい手本となっています。中にはボランティアなど課外活動にも力を注ぎ、積極的に日本の社会と関わっていきこうとしている者もいます。エネルギーな留学生たちの幾人かを紹介します。(いずれも中国出身)

ボランティアで活躍・他学とも交流



平和公園清掃活動に参加(5/27)。
お友達の子さんと李さん(右)

り き せい
李祺成さん (黒竜江省出身・電気工学科4年)

私は中国の黒竜江省から来ました、李祺成と申します。中国の高校で物理を学んだ時、電気製品などの内部回路に強い関心を持ち、大学を考えると技術大国である、日本に留学することを決意し、来日しました。

日本に来たばかりのときは日本語が上手ではなくて、とても苦労しました。特に、勉強の意欲は強くあるにもかかわらず、先生の話が聞き取れなくて、授業について行くのがとても難しかったです。こんなに大変な時、私はIVC(国際ボランティアクラブ)日本語教室の佐藤先生と出会うことができました。優しくて厳しい佐藤先生は、私の日本語が文法的に少しでも間違っていると厳しく指導してくれました。そして、

会話の練習をしながら日本の文化や日本人の考え方なども紹介してくれました。このように何週間、何ヶ月と頑張ったある日、突然日本語が綺麗な言葉として聞こえるようになりました。日本語の上達と共に大学での友達も増えました。それに、学校での授業も楽しくなりました。

物価が高くて生活が厳しく、言葉が通じなくて困ったときが多かったですが、私は一度もあきらめたことはありません。来日してもう三年半になった今は、日本語も話せるようになり、友達も沢山できました。そして大学では電気の基礎から回路理論、半導体分野まで勉強ができました。さまざまな経験から心豊かになり、日本に来た事、そして広島で勉強できて良かったと思いました。

そして、辛い生活経験から得た強い意志で、今後どんなことに会っても挫けずに前向きに頑張りを続けて、社会に必要とされる人になろうと思っています。



留学生交流会にて

おしどり夫婦、学業にいそしむ

く り ちゅうこう
栗中興さん (遼寧省出身) ・ り らいせい
李鍾悦さん (黒竜江省出身) ともに情報工学科4年



研究室での李さん・栗さん(右)ご夫妻

私達は中国から来た留学生で、情報工学科の4年生です。二人とも情報工学科の青井研究室に所属しています。

世界の中で急速に変化している中国のビジネスに対応するために、情報技術は不可欠なものになりつつあることが分かりました。

急激に経済成長した日本の社会・文化と世界のトップになった高水準な情報技術を目指して、自分自身の知識を高めるために、日本に留学しました。

一年半、日本語を学習した後、広島国際学院大学情報工学科に入学できました。留学生として、日本語は難しいものです。学校ではいつも諸先生に質問を優しく説明してもらったり、友達と分からないことをお互いに相談したり、勉強し続けました。もちろん、辛いことはたくさんありましたが、とても

楽しい日々を過ごすことができました。そのおかげで、二人は2年生の時に結婚し、今子どもが一人います。二歳の男の子ですが、中国で両親が面倒を見てくれています。

学生時代は時間がありますので、これを有効に使いたと思っています。

私達はもうすぐ大学を卒業しますが、栗は卒業研究でコンピュータグラフィクスを研究しています。李は並列計算機を研究しています。



華やかな結婚写真

哀楽を共にする双子の姉妹

ちぎょうう ちぎょうせつ
遅暁雨さん・遅暁雪さん（遼寧省出身・現代社会学科2年）

私は遅暁雪と申します。ここで私と姉さんの日本での生活について皆さんにお話したいと思います。私達は双子の姉妹です。小学校から高校までずっと同じクラスで勉強しました。2003年には日本へ来て、福山市弥勒の里日本語学校で2年間勉強しました。今はこの大学で学んでいます。

日本語学校での出会いや別れ、喜怒哀楽などいろいろな思い出が昨日の事のように目に浮かびます。中でも卒業の日忘れられません。担当の先生は私達と一緒に抱き合って泣きました。その時に何か話したかったのですが、胸が一杯で何も言えず泣く事しかできませんでした。先生は私達にとって、友達でもあり家族でもある存在でした。

私達は自分の理想や目標を叶えるために福山を後にし、広島へ来ました。広島へ来たばかりの時は道もわからないし友達もなくてとても不安でしたが、姉さんが一緒にいたから心強かったです。日本へ来てから姉さんとの関係が親しくなった事に今気づきました。

色々苦勞もありましたが今は広島の生活にも慣れました。広島は環境も交通も人もとても良い所です。また大学は忙しいけれど、新しい友達もできたり充実した毎日です。

将来は福祉士の資格を取って福祉の現場で働く人材を育てる専門家になりたいです。今は夢に向かって頑張っています。



姉の暁雨さんと暁雪さん(右)

自動車大好き・将来も是非この職種に

りゅうき
劉奇さん（山東省出身・自動車工業科2年）

昨年の4月に自動車短期大学部に入学してから、もう一年が経ちました。この一年の短大生活を振り返って見ると、大変良い思い出になりました。

小さな頃から車に非常に興味を持ち、どうしても日本に留学して日本車のすばらしさを体験してみたい、日本車の先進的な技術を学びたいという気持ちで短大に入りました。入ってみればあろうことか、基礎科目以外の専門科目の授業はサッパリ分らなかったのです。その当時はよく焦っていましたね。「毎日よくわからない授業を受けるのは、時間をもったいないなあ」と思い、「自短に入ったのは本当に正しかったのかなあ」と悩んでもいました。どうしようもない時、手伝ってくれたのは、当時のチュータの栗田先生でした。今思い出すと、ある一時期、短大の掲示板で週2、3回ぐらい呼び出されました。気落ちする僕を先生は励ましてくれ、おかげで僕はもう一度頑張ってみようとする気を起こしました。

今年4月に、やっといい成績で2年に進級しました。2年生になり、チュータの先生も代わりましたが、今でも栗田先生には感謝で一杯です。

短大の生活、本当に短いです。あと半年で僕は卒業ですが、2級自動車整備士の資格を目指して頑張っている毎日です。



経済産業省を中心とした「産業クラスター構想」では地方の特性、個性を生かした産業の創出、そして地方大学の果たすべき役割が重視されてきた。大学人や学生の産業への係わり方、或いは「人材教育」のあり方が問われているといつてよい。学生は大学の大多数を構成する重要な人材であって、その活力をどのように活用していくか模索している大学は多い。

広島県も中国経済産業局と共に「循環型産業形成プロジェクト」を進めており、この関係で昨年「広島循環型社会推進機構」が立ち上がった。本学からも2名が理事として参加しており、6月4日の「世界環境デー」に合わせて、(株)カンサイ、広島循環型社会推進機構、本学バイオ・リサイクル学科の共催で講演会とイベントを行った。



橋本氏の講演に聴き入る参加者(立町キャンパス)

立町キャンパスで実施した講演会では、庄原実業高等学校・^{のとはら}咽原章氏、広島県環境部廃棄物対策総括監・橋本久夫氏、広島大学副学長(広島循環型社会推進機構理事長)・岡田光正氏からお話を伺った。一般の方々、高校生、大学生など参加者は70名を超えた。

午後からは(株)カンサイ経営の“きなり村”(神石高原町油木、循環型社会実証試験施設)に移動。巨大温室内で企業等の環境パネル展示、チェーンソーアート実演、ジャズライブなどを催した。チェーンソーで作った鷲の木彫りは(株)カンサイ社長のご好意で本学に寄付され、“きなり君”と名づけて立町キャンパスに展示した。ちなみに“きなり”とは古い言葉で気まま、自由の意味である。今風に言えばスローライフである。



チェーンソー彫刻の鷲「きなり君」

「第2回電気電子フェア」開催

電気電子工学科



楽しいキャラクターが出迎え

6月10日(土)、立町キャンパスで「電気電子フェア」を行った。楽しい実験や展示で電気電子工学をもっと身近に感じてもらおうというイベントである。2回目となる今年もフェアは盛況となり、子供をつれた家族や高齢の方々まで多くの市民の皆さんに見学していただいた。

今回もフェアの運営には科の学生が大活躍し、1年生から大学院生まで14名が協力してくれた。大学が地域社会の方々といろいろな形で交流することで、大学の教育・研究内容を広く知っていただくと同時に、学生にとっても見学者に実験や説明をすることで大きな経験と自信を得ることができたと思う。



静電気と電気の実験

《参加した展示》

ロボットと遊ぶ、光のマジック、声の波形を見よう、バイノーラルを聴こう、エレキギターをひいてみよう、ヘルツの実験、さまざまな放電現象、ドライアイスと液体窒素の実験、静電気と電気の実験、ライトレーサーの実演、キャンデーのプレゼントコーナー

情報学部

公開講座

「広がる情報デザイン 全8回シリーズ」

情報デザイン学科

情報デザイン学科は開かれた学科を目指し、これまで以上に市民との交流を広げる努力をしている。この一環として、「広がる情報デザイン・全8回シリーズ」の公開講座(於 立町キャンパス)を企画した。第1～4回は8月末までに終了し、12月末までに全企画が実施される予定である。

第1回「デッサン教室」(5月27日)

趣味でデッサンを始めようという人やすでにデッサンの学習をしている人まで、幅広く市民を対象に実技指導や技術相談を行った。中・高生、一般市民から定員を上回る申し込みがあった。実技指導は伏見清香助教授を中心に進められ、3年の学生4名が補助を務めた。まずデッサンの初歩についてスライドを用いた説明を受けた後、木炭もしくは鉛筆を使うデッサンを体験した。デッサンは初めてという市民から中学校・美術部の生徒、美大進学希望の高校生ほか経験者まで、2～3時間にわたって熱心にイーゼルに向かった。最後は作品を互いに鑑賞しあって、楽しく終えた。



第2回「“ちいさな平和”コンテスト」(プレ企画4月23日～展示終了8月9日)



昨年広島県の被爆60周年を迎え、平和であることを大切にするためのささやかな取り組みとして企画したこのコンテストも、本年度で2回目の実施となった。

作品の公募に先立つ4月23日、中田美喜子助教授が「せこへい美術館(世界の子どもの平和像をつくる会ヒロシマが主催)」に加わる高校生を対象に、平和のイメージを撮影、印刷して展示する講座を開いた(4月24日付「中国新聞」掲載)。また、6月24日に一般向け講座を実施した(NHK ラジオで報道)。電子メールによる作品公募は7月1日～同24日に実施され、全体で高校部門約50点、一般部門約60点の応募があった。

全作品は7月31日～8月9日の間、立町キャンパスに展示された。展示会入場者および関係者の投票により、情報デザイン賞、準情報デザイン賞、佳作、CG・ARTS協会賞が選定された。入賞作品および応募作品はインターネット上で公開されている。アドレスは<http://heiwa.id.hkg.ac.jp/>である。

第3・4回「体験!わくわくアニメ教室」(7月22日、8月26日)

恒例の夏休み公開講座「アニメ教室」。3回目を迎える本年度は広島アニメーション・ビエンナーレ2006の協賛も得た。参加希望者も年々増え、全体を通して、中・高生の増加が特徴的である。学生、研究生のていねいなサポートも参加者から好評である。

本年度は夏休み前期と後期の2回実施した。それぞれ①3Dアニメーション、②パラパラ漫画アニメーション、③コマ撮り人形アニメーションの3つの中から希望を選んでいただいた。第1回目7月22日は①8名+飛び入り一般参加、②10名、③2組3名が、第2回目8月26日は①7名、②9名、③2組3名が参加した。作品はCDやパラパラ漫画本にして各々持ち帰った。



これからの公開講座シリーズ

第5回「IT 社会のうらおもて」9月23日

第6回「私たちの生活の中の騒音問題」10月21日(「たてまち公開セミナー」とジョイント講座)

第7回「(仮)アルスエレクトロニカと情報デザイン」11月11日

(「オーストリア・フェスト(仮) 11月10日～16日」 共催：在日オーストリア大使館、広島オーストリア協会、広島国際学院大学)

第8回「(仮) デジタル音楽」12月25日

高齢者も、障害者も生き生きと

—特別養護老人ホーム「はなみずき」開所—

現代
社会学部



特別養護老人ホーム「はなみずき」開所式。
挨拶する目黒教授

本学部の目黒輝美教授が理事長を務める社会福祉法人「はなさきむら」（兵庫県佐用郡佐用町）が運営する新施設、「特別養護老人ホーム はなみずき」が8月1日（火）開所した。これに先立ち7月30日には開所記念式典が盛大に行われ、真夏の日差しが照りつける中、町内外から130人という大勢の出席者が祝福に駆けつけた。理事長でもある目黒教授がまず挨拶し、来賓からは祝辞が次々に述べられた。続いて施設長の藤川雄樹さんが「入居者一人ひとりが暖かく自由に暮らすことができ、地域の方々とも気軽に交流を持てる開かれた施設を目指します」と抱負を述べた。お祝いの鏡割りと乾杯の後、地元を中心に活躍する和太鼓グループ「上月太鼓」が見事な演奏を披露し、式を締めくくった。

はなみずきは「ユニットケア」という新しい形をとる老人ホームである。できるだけ在宅生活に近づけるため、入居者10人程度の単位ごとに職員を固定し、家族のように親密なケアを行う。また、職員に混じり障害者も掃除やデータ入力などの作業に加わる。この春本学部を卒業したばかりの藤川さんが初代施設長に就任したのははじめ、他部署にも数名の卒業生が配属された。福祉社会コースを擁し、将来の社会福祉士や介護職員も育てる本学部。はなみずきには実践的授業の実習場としての役割も期待されている。



卒業生で「はなみずき」初代施設長に就任した藤川さん

『かいた七夕さん』でボランティア

—地域住民と祭りを運営—

去る7月8日（土）、海田町の畝公園にて、町民有志の方々により、第12回「かいた七夕さん」という七夕祭りが開催された。本学部からも教員3人と学生4人がボランティア・スタッフとして参加した。祭りの1ヶ月前くらいから準備のための会議に出席し、当日の運営もお手伝いさせていただいた。

特に4人の学生ボランティアは、当日午前10時に現地に集合した後、七夕飾りの飾りつけやバザー店舗のためのテント設営を手伝ったほか、午後からはステージへの機材の運搬、日系ブラジル・ペルー人の方々が出店されていたバザー店舗の手伝い、リサイクル・ステーションでの分別ゴミの回収等、様々な仕事を体験していた。終了時間が夜9時30分近くになったこともあり、終盤にはかなり疲れ



ちょっと童心に返る？七夕祭りの飾り付け

の色が見えた時間帯もあったが、教員ボランティアとして参加した伊藤泰助教授・高畑幸講師らのサポートもあり、4人とも何とか最後まで活動することができた。

時折小雨がばらつくあいにくの空模様ながら、ステージでのパフォーマンスやバザー店舗には多くの見物客が集まり、地域住民を中心とする運営スタッフの方々の強い熱意により、祭りは大成功だった。来年以降も継続的に関わることで、本学部が地域社会に貢献していければと考えている。



スタッフの熱意が実り、イベントは大成功

子どもまちづくり講座に協力

8月8日から海田町教育委員会・生涯学習課の主催で「子どもまちづくり講座」が実施された。小学4年から6年までの11人が参加し、グループワークや合宿も体験する中で、海田町の新しい魅力探しに取り組んだ。本学部の4年生5名もボランティアとして加わり、子どもたちをサポートした。





講義中の広本真也さん
(広島トヨペット㈱三原店 勤務)

学生の職業理解を深めるため、「クルマの整備業」の授業を活用し7月6日・7日の2日間特別講義を実施した。外部講師として、昨年3月卒業し現在は広島トヨペット㈱三原店に勤務する広本真也さんを招請した。

後輩である1年生に「就職先選びのポイント」や社会人になるための「学生生活の過ごし方」など自分の体験を踏まえて講義した。就職活動や入社後に必要な「大きな声での挨拶」「お客様や上司に対する言葉遣いや話し方」などの基本マナーを学生のときから身につけておくことが強調された。10月から始まる就職活動や就職に直結することから、学生はメモを取るなど真剣そのものだった。

講義内容のアンケートでも「今まで経験しない非常に役立つ話が聞けた」との回答が多く寄せられ、大変好評であった。特別講義をした先輩に対しては、社会で活躍しているだけに「話し方・言葉遣い・態度」などとても良かったとの賞賛の声が聞かれた。広本さんからは、「多くの学生の前で話すことは、仕事をする以上に緊張しました」との談があった。

この時どとばかり —水無月祭開催—

6月3日、短大部恒例の水無月祭として、今回はソフトバレーボール大会を開催した。学生6チームに加え、教職員2チームの計8チームでトーナメントを行った。日頃の鬱憤を力に変えた学生たちはさすがに強い。教職員チームはあっという間に大差をつけられ、案の定一回戦で敗退した。教職員からは「年には勝てんな」というあきらめと「あのやる気の半分でもいいから、授業のときに出してくれたらなあ」という嘆きの声が聞かれた。優勝した学生たちは副賞で早速焼肉パーティをしたそう。一方の教職員一同は翌日、ロボットのようにぎこちなくキャンパス内を歩いていた。



オープンキャンパスと体験入学

短大部では数年前から、7月末の日曜日と8月最初の土曜日の1週間の内に「オープンキャンパス」と「体験入学」を行っている。

まず7月30日(日)に第2回オープンキャンパスを実施した。今年初めてAO入試説明会を加えるとともに、実践的な講義を取り入れた。エアバッグの安全性を分かりやすく説明するスローモーションビデオを見た後で、実際のエアバッグが膨らむ瞬間を体験してもらった。オープンキャンパス開催の回数を増やしたこともあり、参加人数は減ったものの参加者の態度は真面目で、熱心に質問するなど真剣な姿勢がうかがえた。

また、地域の2ヶ所の公民館から小学生と保護者約30名が見学に訪れた。17,000ccのディーゼルエンジンの爆音に子供たちが歓声を上げるなど、にぎやかな雰囲気も加わった1日であった。

一方の体験入学は毎回参加者が増え続け、今年は高校3年生に限定して申込みを受付けた。それでも当初予定の36名を10名も上回る希望が殺到。受入体制を変更したほどであった。

8月5日(土)、10時から全体会を開いた。参加者は50ccバイクのエンジン構造について説明を受けた。その後各教場に分かれ、午前中にエンジンを分解し、午後は元通り組立てた。不安の中、力を込めてキックペダルを踏むとバリバリとエンジン音が響き渡る。汗にまみれた笑顔が全員に広がった。



体験入学



ソウル大学に留学した下畑さん
(前列左から2人目)

韓国「ソウル大学ハングル短期研修」がゴールデンウィーク期間、6日間の日程で開催された。その研修に本校普通科3年7組、下畑理沙さんが参加した。下畑さんは昨年度(2年次)の選択講座で「ハングル」を受講した。また、修学旅行も韓国を選択するなど、日本から一番近くて近い朝鮮半島の韓国を理解し、韓国の人々との交流に関心を抱いていた。

ソウル大学に足を踏み入れた彼女は、物怖じすることもなく、数年間ハングルを学習してきた「熟練者」たちに混じって、ハングルでの会話、文法学習などに果敢に挑戦していった。そして、放課後にはソウル市内へ一人で出かけて行き、若者に話しかけたり、買い物をしたりと積極的に行動した。

彼女のハングル会話能力ははたして「上級」なのか?いくらひいき目にみてもけっしてそうとは言えない。だが、彼女は誰のガイドを受けることもなく、通訳もつけず、ソウル市内を闊歩し、道を尋ね、ソウル大学の学生と会話するのであった。

広島国際学院高校の生徒にふさわしい、真の国際交流の担い手を、私はソウルの街角で談笑する彼女の横顔に見たように感じた。



韓国の伝統音楽も学んだ

達成感! 連帯感! 感動!

「RUN RUN RUN」第58回 体育祭

6月17日、午前中時折小雨のばらつく中、第58回体育祭は予定通りの日程で挙行された。上半身裸での演技、「組み体操」(1学年男子)の真剣で俊敏な動きは感動的で、「YOSAKOI」(1学年女子)は見る者の心を弾ませた。いずれも本校体育科教員と生徒たちとの努力の結晶である。クラス対抗リレーは予選から大変な盛り上がりを見せ、午前の部最後の「フォークダンス」(2学年男女)は「楽しい学校・国際学院」を象徴するプログラムで、見物していた他校の生徒のうらやむところであった。

午後の部が始まるころには、雨もすっかりあがり、曇り空の絶好のコンディションになった。本校体育祭のメインイベントはなんとといっても「盆踊り」(3学年男女)。男女とも艶やかな浴衣に身を包み、楽しく踊る姿に青年の純粋さを感じ取り、心が熱くなる。

やがて最後の種目「クラス対抗リレー・決勝」を迎えた。3年生にとっては高校最後の体育祭、各クラスのテントの前で声を限りに声援を送る生徒たちの心の中は…。普通科3年1組女子は3連覇を果たし、涙のゴールインであった。

生徒たちの心に達成感と連帯感、見る者にこの上ない感動を与えた第58回体育祭は、大勢の保護者の見守る中静かにその幕を閉じた。



感動のゴールイン



努力が結実「組み体操」

全校生徒のこころが一つに

特別教育活動 高校野球観戦

「かっとなせ! かっとなせ! 直弥」、「いいぞ! いいぞ! 大輝」、応援リーダーのかけ声と吹奏楽部のリズミカルな演奏に合わせての大応援団が誕生した。

7月14日(金)、広島市民球場一塁側スタンドは本校生徒の制服と歓声で埋まった。夏の全国高校野球広島大会1回戦、本校は全校あげての野球観戦を企画した。「連帯・感動・母校愛」をキーワードとして本校初の試みを長野校長の英断と教職員の賛同によって実現した。

梅雨のまっただ中ということで心配した天気も上々の野球日和となり、朝早くから心をわくわくさせながら、生徒たちは集まってきた。試合展開は本校の打撃陣が相手(自強高校)投手を打ち砕き、18点を奪い、スタンドはこの上なく盛り上がった。結局、7回コールドゲーム18対6で勝利した。約2時間のドラマであったが、全校生徒・保護者・教職員が心をついでできたことは、何にも代え難い貴重な体験であったと思う。

母校勝利の余韻に浸りながら、生徒たちは意気揚々と広島市内に散っていった。



大量リードに沸くスタンド



生徒たちとの合同練習

フランス柔道指導者来校 日仏国際交流

国際交流室・柔道部

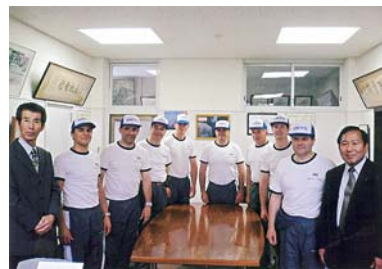
善武道柔道クラブ(フランス・マルセイユ)指導者一行8人が5月下旬本校を訪問し、本校生徒、教職員と交流を行い、親睦を深めた。前回は2年前、指導者・中高生27人が来校し、ホームステイ・親善試合・焼き肉パーティー(保護者会主催)などで国際交流を深めた。

今回は指導者のみの来広で、フランスでの柔道指導、青少年の健全育成に役立てるために、柔道指導のあり方を学ぶことが主目的であった。本校国際交流室は、日仏国際交流の一環としてとらえ、校長以下、多くの教職員が歓迎パーティーに臨んだ。

柔道をこよなく愛し、日本文化に心酔する彼らとの国境はない。

一行の代表者ノエルさんからの礼状

「広島国際学院高校の皆さんの温かい受け入れに深く感謝いたします。柔道部員との合同練習・平和公園見学・歓迎パーティー等は忘れられない良き思い出です。国際学院柔道部が柔道と人生のあり方を結びつけて考えていらっしゃることに深く感動し、我々フランス柔道界も、『真の友情の大切さ・礼を重んじる気風など』柔道の本質を大切にしながら精進していきたいと思ひます。」



校長より帽子をプレゼントされてにっこり!

努力に拍手を

ゴルフ部・自転車競技部

高校のクラブ活動は相変わらず活発で、各クラブとも着実に実力をつけている。特にゴルフ部と自転車競技部の今年度の活躍には目を見張るものがある。それぞれの監督から報告願おう。

ゴルフ部
監督 橋田源太郎

本年度1学期のクラブ活動状況と実績について報告する。

6月に行われた広島県高校総合体育大会において、本校ゴルフ部が女子の部で5年連続団体優勝を成し遂げた。日頃の練習とチームワークがもたらした勝利だった。来年度の6連覇を目指し、1年生女子部員4名も含めて頑張っている。8月1日からは、白竜湖カントリークラブで合宿を行うなど盛り沢山の練習をこなしている。

個人の成績において特筆すべきことは、普通科2年7組・法崎佳成子さんが、中国女子アマチュアゴルフ選手権大会において6位に入賞し、本校生徒としては初めての全日本女子アマチュアゴルフ選手権大会に出場したことである。

また、7月末に開催された全国高等学校ゴルフ選手権大会中国予選会において、3位入賞を果たし、8月に行われた全国大会(群馬県)、並びに、日本ジュニアゴルフ選手権大会(埼玉県)に出場した。



私達が5連覇を達成しました。



全国高校総体(8月・大阪)ポイントレース決勝
(写真中央・青い帽子が野中竜馬君)

伝統ある本校自転車競技部が今年も頑張っている。特に総合システム科2年2組、野中竜馬君の活躍は特筆すべきものがある。

まず、県総体において2冠(ロード競技、トラック競技・3kmインディヴィジュアルパーシュート)、さらに、中国大会においても2冠(スクラッチ競技、ポイントレース)を獲得した。この中国大会では団体(学校対抗)でも3位に食い込んでいる。

全員が高校入学と同時にクラブに入ってきた。1日100km以上の走り込みに耐えるためには、基礎体力の増強のためのウェイトトレーニング、走り込みは欠かせない。歯を食いしばって単調な練習に耐える。仲間との存在も大きい。その結果、我慢することや、感謝することも覚えた。

まだまだ、経験と忍耐が不足している。よほど自分がしっかりしないと苦しさや押しつぶされてしまうのが自転車競技、部員一丸となって5年前の全国制覇に近づきたい。

自転車競技部
監督 三宅良彦

【速報】吹奏楽部は今年も中国大会で金賞を受賞(4年連続)

第18回学外展『絆』

文化局 局長 ^{あそう きょうへい} 麻生 恭兵



盛況になった学外展

6月17・18日(土・日)に広島国際学院大学立町キャンパスで学友会文化局主催による第18回学外展『絆』が開催されました。

今年は去年よりも多くの文化系サークル(写真部、電子計算機研修会、美術研究同好会、競技麻雀愛好会、表千家流茶道同好会)が出展してくれました。来場者が参加できるように電子計算機研修会はパソコンゲーム、表千家流茶道同好会は茶会を行い来場者にお茶をたててもらうなど工夫をしました。

我々学友会文化局でも来場者が参加できるようにお絵書きコーナーという企画を考えました。今年は参加型の企画が多く、例年よりも来場者の方々により楽しんでもらえたと思います。来年も参加サークルを増やして楽しい企画を考えていきたいと思っています。

来場者の方々及び手伝ってくださった関係者の方々に深く感謝しています。

マラソン大会

体育局 総務部長 ^{よりみつ まさひろ} 寄満 大宏

5月14日(日)、心配されていた雨もなく、第22回学長杯マラソン大会が行われました。高城体育館をスタート・ゴール地点に、白熱したレースが展開されました。

マラソンの部、駅伝の部合わせて58名のランナーが集まりました。学生部長である河野先生のピストルを合図に、高城体育館前をスタートしました。キャンパスを出て中野東駅前踏切から2号線方面へ曲がり、瀬野川河川敷へ向かうコース。3キロマラソンの部はそこから学校へ折り返し走りました。大学周辺は長い坂道もある難所中の難所です。その上、この日は気温も湿度も高く、良好なコンディションとは言えませんでした。大きな問題も起こらず順調な大会運営ができました。

今回、今村学長は都合により欠席されましたが、代理の河野先生がいつも以上に盛り上げてくださいました。保健室の森岡先生や学生課の辻岡先生にもご協力いただきました。

大会開催に際しては、学友会、体育局、文化局、そして高城祭実行委員会の4局が協力して警備にあたっています。暑い中にもかかわらず、皆よく勤めてくれました。



一斉にスタート

体育局 局長 ^{かわうえ よしのり} 河上 慶典



ジャストミート!

去る5月28日(日)、学友会体育局の主催でソフトボール大会が行われました。今回で37回目を迎えたソフトボール大会も、天候が心配されたものの無事終えることができました。

参加したチーム全員が、ソフトボールを楽しみ、最後までどっちが勝ってもおかしくない試合ばかりでした。優勝したのは一年生のS・T・Bチームでした。S・T・Bチームのように、大学に入ったばかりの一年生が集まって友達の輪を作り、学年問わず試合することで学校内の交流も深まるので楽しいと思います。皆さんも、自分たち

の作り上げた最高のチームで大会に参加してみませんか。

来年はもっといい大会にできるようみんなで頑張っていきますので、これからも体育局をよろしくお願いします。

ソフトボール大会



豪華賞品を手笑顔

HERO2006

工学部 バイオ・リサイクル学科

講師 ^{なかむら}中村 ^{まさよし}格芳



「音で遊ぼう～吹く楽器編」
体験!民族楽器ディジュリッド



「空気を使ったおもちゃ作り」
友達同士で競って製作

定期教育交流講座『HERO』(Hiroshima Engineers Reaching Out)は、小中学生や高校生などエンジニアの卵達に、一般に広く使われている科学をやさしい実験などの体験を通して面白さを感じてもらったり、大学生を含む一般の方にはより実践的な専門講座や英会話講座を提供することを目的としています。

本年度は、本学院の7名の各専門分野の講師によって開講いたしました。内容は下表の通りです。HEROによる一般の方への公開講座は、2003年度から実施いたしました。これまでの実施内容や開講案内などはすべて<http://hero.hkg.ac.jp/>に掲載しています。HEROの開催については後援団体として広島県教育委員会、広島市教育委員会、協賛団体として(財)マツダ財団にご協力いただきました。

私は今年度からの初参加です。普段接することのない小学生が対象だったので、正直、説明をちゃんと聞いてくれるのだろうか、教材は難しすぎないか、出来なくて泣いたりする子がいたらどうしようなどと、心配の種は尽きませんでした。しかし実際講座を行うと、当初の予定を大きく上回るスピードで教材を作り上げ楽しそうに遊んでいました。一番うれしかったのは、複数の余った教材を手にとって「もらって帰ってもいい?家で色々組み合わせて何か作ってみる」と与えられるだけでなく応用力まで見せてくれたことでした。嵐のような時間でしたが、思い返すと、おもちゃを作り上げるという目的に対する集中力の高さや、体験したことのない新しいものに対する対応力の早さについては、逆に私が勉強させられたような気がします。

開催講座名	講師	
音で遊ぼう～吹く楽器編～	渡邊 真彦	工学部バイオ・リサイクル学科講師
For easy ways to study English!	カリン・バラック	情報学部情報工学科講師
ヨーグルトが可能にする健康生活	渡辺 昌規	工学部バイオ・リサイクル学科助教授
ラジオを鳴らしてみよう	歌谷 昌弘	情報学部情報工学科講師
3Dで遊ぼう	内海 能亜	工学部機械工学科助教授
作って、はかるう!	金本 貴司	自動車短期大学部助手
空気を使ったおもちゃ作り	中村 格芳	工学部バイオ・リサイクル学科講師

私の大学生活

奉仕サークルがない? なら作っちゃえ!

情報学部 情報工学科 3年

^{とよだ}豊田 ^{やすひろ}泰弘

大学に入学して、あっという間に3年生になりました。入学する前は3年間企業で社会人として働いていて、資格取得や新しい自分発見を目的として大学に入りました。私が大学に入って変わったことは、いろんな人との出会いで自分が少し成長できたことと、コミュニケーションを意識して人と交流していることです。

私はボランティア愛好会と文化局のサークルに入っています。そのうち、ボランティア愛好会のサークルのほうは部長をしています。うちの大学に入学した時にボランティアのサークルがなかったので、自分の中で「なんでボランティアのサークルがないんだろう」と疑問に思いました。もともと子供達と遊んだり交流したりする保育ボランティアが好きだったので、ボランティアサークルを作りました。

サークルの定期的な活動として現在、中野東小学校児童館で小学生の子供達とドッジボールや鬼ごっこなどの遊びを一緒に楽しんで交流しています。また、10月には「べあせろべ」という国際交流のお祭りに参加する予定です。出し物としてバルーンアートや缶ぽっくりをしたいと思います。

私にとっての大学生活とはボランティアだけではなく、大学の講義や文化局のサークル活動であったり、あとはバイトや学外の活動、遊びなど毎日楽しくいろんなことをしたりして、「時には学び、時には遊び」といったものだと思います。残りの学生生活をいろいろな経験をして楽しく過ごしていきたいと思っています。



機械工学科のユニークな教育

主任教授 李木 経孝

工学部機械工学科では、「機械の設計・製造に必要な知識と技術を有する中堅技術者を育成する」を教育目標として掲げ、CAD/CAM/CAEを取り入れた実践教育を行っています。さらに、新分野も積極的に取り組み、最近では、環境問題を捉えたユニークな教育が展開されており、「スターリングエンジンの設計製作を通してのモノづくり教育」は、中国・四国工学教育協会賞を受賞し、「バイオエタノール自動車の開発」はNHKの情報番組に出演しました。

中国・四国工学教育協会賞受賞

教授 黄 樹偉



中国・四国工学教育協会賞賞状

7年前から手探りながら築き上げてきました、スターリングエンジンの設計製作を通してのモノづくり教育プログラムの成果が評価され、中国・四国工学教育協会賞を受賞しました。今まで専門の研究分野で日本機械学会論文賞(1991年)、日本燃焼学会ベストプレゼンテーション賞(2002年)を受賞してきましたが、初めて教育分野での受賞ですので、一段とうれしかったのです。今までこのプログラムの実施にご協力頂きました機械実習場の諸先生方に感謝します。

ものの創造・創作を含んだモノづくりの教育は工学系の技術教育において中心的な位置を占めており、特に、「機械をつくる」を自任する機械工学科の学生にとっては、モノづくり技術を身に付けることは、ほかの学生よりも一段と重要となるわけです。

このため、卒業研究で「10分以上自力運転できるスターリングエンジンの設計試作」を課題とした卒業研究指導プログラムを設計し、7年前から実施してきました。このプログラムでは、受講者は実際のスターリングエンジンに接しエンジンに興味を持つことから始まり、途中幾つかの計算、設計、製作、改善等の難関を経て、最後に自作したエンジンが運転できるまでで終わります。受講者はこの間、エンジンに関する調査、学習、計画、設計、製図、製作など一連の研究活動を通して、モノづくりに必要な基礎的技術を少しずつ身につけていくのです。受講したほとんどの学生は機械の設計、製図、製作能力が向上し、特に2D/3D-CADの能力が著しく向上したことがアンケート調査などからわかりました。今回の受賞は、教員だけでなく黄研究室所属の卒業研究生全員にとっても大きな励みとなることと思います。



受賞者

研究加速「酒バイク」

助教授 内海 能亜

内海研究室では、昨年度より『お酒(バイオエタノール)で走るビークル(乗り物)』に関する研究を行っています。バイオエタノールとは植物から作られるアルコールのことで、皆さんが飲んでいるお酒になります。お酒はこれまで、人間が行動を起こすための“潤滑油”なんて、冗談で言われてきましたが、これからは“燃料”として大事にしていかなければなりませんね！



学生たちがリハーサル

植物は二酸化炭素を吸収して成長します。植物由来の燃料でも、燃やせば二酸化炭素を排出しますが、吸収した分を排出しているので、二酸化炭素の出入りがゼロと考えることができます。これをカーボンニュートラルといいます。しかしながら、石油のような化石(枯渇)燃料は二酸化炭素を排出するのみで、地球温暖化の抑制にはつながりません。自動車による二酸化炭素の排出は年々増加する一方で、地球温暖化の問題が毎日のように取り上げられ、皆さんも環境問題に対して、非常に敏感になっていることと思います。

昨年度は第1回立町公開セミナー「みんなで考える環境問題」と広島循環型社会推進機構の技術講演会で講演を2件行い、専門家のみならず、環境問題に対する一般の方たちの関心の高さを肌で感じました。さらに本年度に入り、NHK広島のTV番組「情報いちばん!ちゅうごく/ひろしま」に取り上げられました。写真は学内で学生がインタビューを受けているところ、学生たちがスタジオ生出演のためにリハーサルをしているところです。最後にNHK広島にて、開発したバイクと一緒にみんなで記念撮影。バイクの排気ガス、お酒の香りがしますよ。一度、見に来てはいかが？



インタビューを受ける学生



みんなで記念撮影

★ 今後の主な行事予定

大学・短大 高城祭 (10/28~29) 推薦入試 (大・11/10 短・11/11) クリスマスフェア (12/16)
高校 修学旅行 (10/11~16) 文化祭 (11/19)

この広報誌はホームページでご覧になれます。

<http://office.hkg.ac.jp/~kikaku/kouhou/>